

## 福祉用具専門相談員講習課程

## 1 研修科目及び研修時間数

区分	科 目	時間数
講義	一 福祉用具と福祉用具専門相談員の役割	
	(1) 福祉用具の役割	1
	(2) 福祉用具専門相談員の役割と職業倫理	1
	二 介護保険制度等に関する基礎知識	
	(1) 介護保険制度等の考え方と仕組み	2
	(2) 介護サービスにおける視点	2
	三 高齢者と介護・医療に関する基礎知識	
	(1) からだとこころの理解	6
	(2) リハビリテーション	2
	(3) 高齢者の日常生活の理解	2
	(4) 介護技術	4
	(5) 住環境と住宅改修	2
	四 個別の福祉用具に関する知識・技術	
	(1) 福祉用具の特徴	8
演習	(2) 福祉用具の活用	8
講義	五 福祉用具に係るサービスの仕組みと利用の支援に関する知識	
	(1) 福祉用具の供給の仕組み	2
	(2) 福祉用具貸与計画等の意義と活用	5
演習	六 福祉用具の利用の支援に関する総合演習	
	福祉用具による支援の手順と福祉用具貸与計画等の作成	5

(注) 上記とは別に、筆記の方法による修了評価（1時間程度）を実施すること。

## 2 実施方法

指定講習は講義、演習により行うこととし、受講者が講習課程での知識及び技術の修得がなされていることにつき確認ができるようなものであること。

この場合、カリキュラム中に別途位置づける必要はないが、講義の課程の中で、この内容が担保されている必要がある。

指定講習の修了評価については、指定講習修了者の質の確保を図る観点から、厳正に行われる必要がある。

全科目の修了時に、別記「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」に定める「到達目標」に沿って、各受験者の知識・技術等の修得度を評価すること。

修了評価の実施方法については、筆記の方法により一時間程度実施するものとし、修了評価に要する時間はカリキュラムの時間数には含めないものとする。評価の難易度については、福祉用具専門相談員の入口に位置する講習であることから、「列挙できる（知っているレベル）」「概説できる（一通り

の概要を説明できるレベル)」を想定している。

「到達目標」に示す知識・技術等の修得が十分でない場合には、事業者は必要に応じて補講等を行い、到達目標に達するよう努めるものとする。

## 福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針

科目	目的	到達目標	内容
1 福祉用具と福祉用具専門相談員の役割			
福祉用具の役割 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具の定義と、高齢者等の暮らしを支える上で果たす役割を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具の定義について、自立支援の考え方を踏まえて概説できる。</li> <li>福祉用具の種類を概説できる。</li> <li>高齢者等の暮らしを支える上で福祉用具の果たす役割をイメージできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉用具の定義と種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度や障害者総合支援制度等における福祉用具の定義と種類</li> </ul> </li> <li>○福祉用具の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活動作（ADL）等の改善</li> <li>・介護負担の軽減</li> </ul> </li> <li>○福祉用具の利用場面</li> </ul> <p>※必要に応じて、視聴覚教材の活用、医療・介護現場の実習・見学等を組み合わせる。</p>
福祉用具専門相談員の役割と職業倫理 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険制度における福祉用具専門相談員の位置付けと役割を理解する。</li> <li>福祉用具専門相談員としての職業倫理の重要性を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具による支援の手順に沿って、福祉用具専門相談員の役割を列挙できる。</li> <li>介護保険制度の担い手として職業倫理の重要性を理解し、仕事をすすめる上での留意点を列挙できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護保険制度における福祉用具専門相談員の位置付けと役割</li> <li>○福祉用具専門相談員の仕事内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具による支援（利用目的や選定の援助、使用方法の指導、機能等の点検等）</li> </ul> </li> <li>○職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具専門相談員の倫理（法令順守、守秘義務、利用者本位、専門性の向上等）</li> </ul> </li> </ul>
2 介護保険制度等に関する基礎知識			
介護保険制度等の考え方と仕組み (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険制度等の目的と、基本的な仕組みを理解する。</li> <li>地域包括ケアに係る関連施策について理解し、福祉用具専門相談員はその担い手の一員であることを自覚する。</li> <li>地域包括ケアを担う各専門職の役割・責務に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険制度等の理念、給付や認定の方法及び介護サービスの種類・内容を列挙できる。</li> <li>地域包括ケアの理念を概説できる。</li> <li>地域包括ケアの構成要素と、支える主体を列挙できる。</li> <li>地域ケア会議の役割・機能を概説できる。</li> <li>地域包括ケアを担う各専門職の役割・責務を列挙できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護保険制度等の目的と仕組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険法の理念（尊厳の保持、自立支援、利用者選択と自己決定等）</li> <li>・介護保険制度の仕組み（要介護認定、サービス提供、費用負担等）</li> <li>・介護サービスの種類と内容</li> <li>・高齢者・障害者の保健・福祉に関連した制度（障害者総合支援法等）の概要</li> </ul> </li> <li>○地域包括ケアの考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアの理念（住み慣れた地域での生活の継続、包括的な支援等）</li> <li>・構成要素（医療・介護・予防・住まい・生活支援）と多様な支え方（自助・互助・共助・公助）</li> <li>・地域ケア会議の役割・機能</li> <li>・医療・介護に関わる各専門職の役割</li> </ul> </li> </ul>

	ついて理解する。		
介護サービスにおける視点 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスを提供するに当たって基本となる視点を身に付ける。</li> <li>・ケアマネジメントの考え方を踏まえ、福祉用具に係るサービスの位置付けや多職種連携の重要性を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の人権と尊厳を保持した関わりを行う際の留意点を挙げできる。</li> <li>・ケアマネジメントや介護予防、多職種連携の目的を概説できる。</li> <li>・居宅サービス計画と福祉用具貸与計画等の関係性を概説できる。</li> <li>・国際生活機能分類 (ICF) の考え方を概説できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権と尊厳の保持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護、身体拘束禁止、虐待防止、ノーマライゼーション、エンパワーメント、クオリティオブライフ (QOL)</li> </ul> </li> <li>○ケアマネジメントの考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントの意義・目的 (人間の尊厳、自立支援及び自己決定・自己実現)</li> <li>・ケアマネジメントの手順 (アセスメント、ケアプラン作成、サービス担当者会議、説明と同意及びモニタリング)</li> <li>・居宅サービス計画と福祉用具貸与計画等との関係性</li> <li>・介護予防の目的と視点</li> <li>・国際生活機能分類 (ICF) の考え方</li> <li>・多職種連携の目的と方法 (介護に関わる専門職の種類と専門性及びサービス担当者会議等での連携の具体例)</li> </ul> </li> </ul>
3 高齢者と介護・医療に関する基礎知識			
からだところの理解 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等の心身の特徴と日常生活上の留意点を理解する。</li> <li>・認知症に関する基本的な知識を踏まえ、認知症高齢者との関わり方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う心身機能の変化の特徴を挙げできる。</li> <li>・高齢者に多い疾病の種類と症状を挙げできる。</li> <li>・認知症の症状と心理・行動の特徴を理解し、それを踏まえた関わり方を挙げできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○加齢に伴う心身機能の変化の特徴 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体機能の変化の特徴 (筋・骨・関節の変化、認知機能の変化、体温維持機能の変化、防衛反応の低下、廃用症候群等)</li> <li>・心理機能の変化の特徴 (喪失体験、環境への不応等)</li> </ul> </li> <li>○認知症の理解と対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の症状</li> <li>・認知症高齢者の心理・行動の特徴と対応</li> </ul> </li> </ul>
リハビリテーション (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの考え方を理解する。</li> <li>・リハビリテーションにおける福祉用具の関係性を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの考え方と内容を概説できる。</li> <li>・リハビリテーションにおける福祉用具の関係性と、リハビリテーションに関わる専門職との連携におけるポイントを挙げできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リハビリテーションの基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの考え方と内容</li> <li>・リハビリテーションに関わる専門職の役割</li> </ul> </li> <li>○リハビリテーションにおける福祉用具の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションで用いられる福祉用具の種類と内容</li> <li>・リハビリテーション専門職との連携</li> </ul> </li> </ul>
高齢者の日常生活の理解 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等の日常生活の個性や家族との関係など、生活全般を捉える視点を身に付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活には個性があることを理解し、生活リズム、生活歴、ライフスタイル、家族や地域の役割等を挙げできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活について <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズム、生活歴、ライフスタイル、家族や地域の役割等</li> </ul> </li> <li>○基本的動作や日常生活動作 (ADL) の考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的動作の種類と内容 (寝返り、起き上がり、座位、立ち上がり、立位、着座、</li> </ul> </li> </ul>

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的動作や日常生活動作（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）の考え方、日常生活を通じた介護予防の視点を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的動作や日常生活動作（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）の種類を列挙できる。</li> <li>・自宅や地域での日常生活を通じた介護予防を列挙できる。</li> </ul>	<p>歩行、段差越え、階段昇降等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活動作（ADL）、手段的日常生活動作（IADL）の種類と内容</li> <li>・自宅や地域での日常生活を通じた介護予防</li> </ul>
介護技術 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活動作ごとの介護の意味と手順を踏まえ、福祉用具の選定・適合に当たって着目すべき動作のポイントを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活動作（ADL）に関連する介護の意味と手順について列挙できる。</li> <li>・各介護場面における動作のポイントと、それを支える福祉用具の役割を列挙できる。</li> </ul>	<p>○日常生活動作（ADL）（※）における基本的な介護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を要する利用者の状態像</li> <li>・日常生活動作に関連する介護の意味と手順、その際に用いる福祉用具</li> </ul> <p>※ 食事、排泄、更衣、整容、入浴、移動・移乗、コミュニケーションなど</p>
住環境と住宅改修 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の住まいにおける課題や住環境の整備の考え方を理解する。</li> <li>・介護保険制度における住宅改修の目的や仕組みを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の住まいの課題を列挙できる。</li> <li>・住環境の整備のポイントを列挙できる。</li> <li>・介護保険制度における住宅改修の目的や仕組みを概説できる。</li> </ul>	<p>○高齢者の住まい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅構造・間取り・設備の種類等の高齢者の住まいにおける課題</li> </ul> <p>○住環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住環境整備の考え方</li> <li>・基本的な整備のポイント（トイレ、浴室、玄関、居室等の段差解消、床材選択、手すりの取付け等）</li> </ul> <p>○介護保険制度における住宅改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅改修の目的、範囲、手続きの手順等</li> </ul>
4 個別の福祉用具に関する知識・技術			
福祉用具の特徴 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具の種類、機能及び構造を理解する。</li> <li>・基本的動作や日常の生活場面に応じた福祉用具の特徴を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具の種類、機能及び構造を概説できる。</li> <li>・基本的動作と日常の生活場面に応じた福祉用具の関わりや福祉用具の特徴を列挙できる。</li> </ul>	<p>○福祉用具の種類、機能及び構造</p> <p>※ 起居、移乗、移動、床ずれ、排泄、入浴、食事・更衣・整容、コミュニケーション・社会参加関連用具及びその他の福祉用具</p> <p>○基本的動作と日常の生活場面に応じた福祉用具の特徴</p>
福祉用具の活用 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具の基本的な選定・適合技術を修得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各福祉用具の選定・適合を行うことができる。</li> <li>・高齢者の状態像に応じた福祉用具</li> </ul>	<p>○各福祉用具の選定・適合技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具の選定・適合の視点と実施方法</li> <li>・福祉用具の組み立て・使用方法と利用上の留意点（誤った使用方法や重大事故の</li> </ul>

	・高齢者の状態像に応じた福祉用具の利用方法を修得する。	の利用方法を概説できる。	例示を含む) ○高齢者の状態像に応じた福祉用具の利用方法
5 福祉用具に係るサービスの仕組みと利用の支援に関する知識			
福祉用具の供給の仕組み (2時間)	・福祉用具の供給の流れや整備方法を理解する。	・福祉用具の供給の流れと各段階の内容を列挙できる。 ・福祉用具の整備の意義とポイントを列挙できる。	○福祉用具の供給の流れ ・福祉用具の製造、輸入、販売及び貸与の流れ ・介護保険法における福祉用具貸与事業の内容 ○福祉用具の整備方法 ・消毒、保守点検等
福祉用具貸与計画等の意義と活用 (5時間)	・福祉用具による支援の手順と福祉用具貸与計画等の位置付けを理解する。 ・福祉用具貸与計画等の作成と活用方法を理解する。 ・利用者の心身の状況や生活における希望、生活環境等を踏まえた利用目標の設定や選定の重要性を理解する。 ・モニタリングの意義や方法を理解する。	・福祉用具による支援の手順と福祉用具貸与計画等の位置付けについて概説できる。 ・福祉用具貸与計画等の項目の意味と内容を概説できる。 ・福祉用具貸与計画等の活用のポイントを列挙できる。 ・利用者の心身の状況や生活における希望、生活環境等を踏まえた利用目標の設定や選定の重要性を概説できる。 ・モニタリングの意義や方法を概説できる。	○福祉用具による支援の手順の考え方 ・居宅サービス計画と福祉用具貸与計画等の関係性 ・アセスメント、利用目標の設定、選定、福祉用具貸与計画等の作成、適合・使用方法の説明、モニタリング等 ・状態像に応じた福祉用具の利用事例（福祉用具の組合せや利用上の留意点、見直しの頻度、医療・介護・地域資源との連携方法等） ○福祉用具貸与計画等の意義と目的 ・記録の意義・目的（サービス内容の明確化、情報共有、エビデンス、リスクマネジメント） ○福祉用具貸与計画等の記載内容 ・利用者の基本情報、福祉用具が必要な理由、福祉用具の利用目標、具体的な福祉用具の機種と当該用具を選定した理由その他関係者間で共有すべき情報 ○福祉用具貸与計画等の活用方法 ・利用者・家族や多職種との情報共有とチームアプローチ ○モニタリングの意義と方法 ・モニタリングの意義・目的 ・モニタリング時の目標達成度の評価・計画変更
6 福祉用具の利用の支援に関する総合演習			
福祉用具による支援の手順と福祉用具	・事例を通じて、福祉用具による支援の手順の具体的なイメージを得るとともに、福祉用具	・福祉用具貸与計画等の作成・活用における一連の手順を列挙できる。 ・福祉用具貸与計画等の作成におけ	○事例演習 ・事例に基づくアセスメント、利用目標の設定、福祉用具の選定及び福祉用具貸与計画等の作成の演習 ・利用者・家族やサービス担当者会議等での福祉用具貸与計画等の説明及びモニタ

<p>具貸与計画等の作成 (5時間)</p>	<p>具貸与計画等の基本的な作成・活用技術を修得する。</p>	<p>る主要なポイントを列挙できる。</p>	<p>リングに関するロールプレイング ※事例は、脳卒中による後遺症、廃用症候群、認知症などの高齢者に多い状態像とし、地域包括ケアにおける福祉用具貸与等の役割や多職種との連携に対する理解が深まるものが望ましい。</p>
----------------------------	---------------------------------	------------------------	--